２０２６年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト１０」候補（概要）

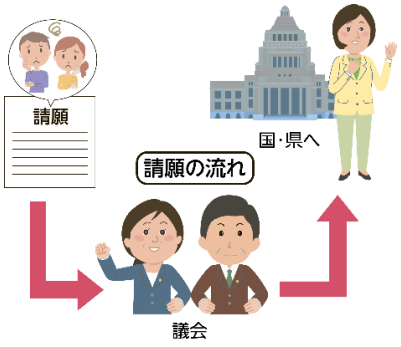
「三重県議会の活動ベスト１０」の候補をリストアップしました。それぞれの内容は以下のとおりですので、皆さんの選定の参考にしてください。

～開かれた議会運営の実現～

１月～10月	① 県民の皆さんの想いを国や知事等へ 《請願１１件を受け付け》（注）２０２６年１月～１０月末に受け付けた件数です

県議会では、所管の常任委員会で県民の皆さんの想いがこめられた請願を審査しています。

その審査結果を踏まえ、本会議で採択された請願のうち、県政に関するものについては、実現に向けて**どのように取り組んだのか知事に対し報告を求め、**国政に関するものについては、**衆参両議院議長や内閣総理大臣に対して意見書を提出**するとともに、県選出国会議員に協力を要請しています。



請願の流れ

１月～10月	② 次代を担う児童・生徒・学生に主権者教育を実施 《みえ県議会出前講座で学校を訪問》

主権者教育の一環として、子どもたちを対象に議会の仕組みや役割を伝える「みえ県議会出前講座」を行っています。

１月～１０月の期間に、小学校・高校・大学計１１校で実施しました。

児童や生徒、学生から、「知らなかった県議会のことを学ぶことができてよかった」、「政治は自分たちの生活と深く関わっていることを実感し、これからはニュースや県政に関心を持ち、自分の一票を大切にしたい」等の感想をいただきました。



出前講座の様子
〈三重大学教育学部附属小学校〉

1月～	③ 議会や議員をより身近に 《情報発信を強化》

県議会では、県民の皆さんに議会や議員をより身近に感じていただけるよう、三重県議会公式Facebook、「みえ県議会だより」や「みえ県議会新聞」などの広報紙、三重県議会ホームページ、テレビ中継・インターネット中継など、**さまざまな媒体を通じて議会の活動や情報を発信しています。**

今年はFacebookで、細やかに投稿して、議会の活動をイメージしやすいよう工夫しました。**今後も議会の情報を分かりやすくお届けできるよう取り組んでいきます。**



さまざまな媒体で情報発信

2月	④ 離島振興をテーマに県民の皆さんと意見交換 《みえ現場 de 県議会を開催》

県政の重要課題等をテーマに定めて、県内各地で県民の皆さんと意見交換を行う「みえ現場 de 県議会」を不定期に開催しています。

２月に、「離島の振興～『観光』による課題解決を目指して～」をテーマとし、関係人口の創出など新たな視点で地域の魅力を高め、賑わいを取り戻す方策について、鳥羽市・志摩市の離島住民や関係者の方々と意見交換を行いました。

いただいたご意見を踏まえて、県議会での議論を深めていき、施策や予算に反映できるよう取り組んでいます。



みえ現場 de 県議会の様子
〈鳥羽市〉

8月～	⑤ 高校生の想いを実現へ～１２校４３名からの提案を議論～ 《みえ高校生県議会を開催》

８月２０日、６回目となる「みえ高校生県議会」を開催しました。高校生議員の提案等は、自分たちを取り巻く環境や三重県の状況、他県の事例、統計等を踏まえたものであり、三重県をより暮らしやすくするため大変重要なものばかりでした。

その高校生議員の提案等について、９月定例月会議の行政部門別常任委員会で議論し、執行部から聴き取りを行ったり、委員長報告に盛り込んで知事に要望などを行ったりしました。今後、議会での議論の結果を、議員から高校生に報告するフィードバックを行います。



高校生議員による質問
〈三重県議会　議場〉

10月	⑥ 子育て世代が安心して傍聴できる環境へ 《親子傍聴室の開設決まる》

三重県議会傍聴規則では、傍聴者の年齢制限は設けられていないものの、乳幼児を連れて傍聴する場合、子どもが声を出したり泣き出したりした際には、議場等の外に出ざるを得ない状況にあります。

三重県議会がさらに開かれた議会となるよう、**議事堂内に乳幼児のおむつ替えや授乳等ができ、モニターで議場や各委員会の様子を視聴できる親子傍聴室を開設**することとなりました。**引き続き、子育て世代が安心して傍聴できる環境に向けて取り組みを進めます。**



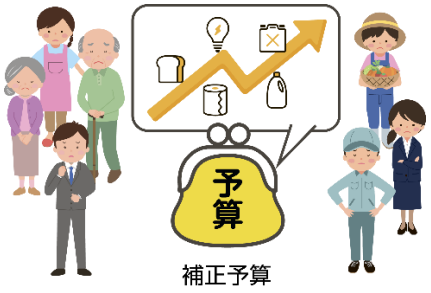
親子傍聴室のイメージ

～住民本位の政策決定と政策監視・評価の推進～

１月 ２月 ６月 ９月	⑦ 物価高騰による影響等に対応するための予算を決定 《補正予算の議決》

県民生活や県内経済に影響を及ぼすさまざまな課題に対して迅速な対応を行うため、**補正予算の速やかな議決を行いました。**

具体的には、**高病原性鳥インフルエンザへの防疫対応**（令和７年度１月補正予算）や、**エネルギー・食料品等の物価高騰への対応**（令和７年度２月補正予算）、**中東情勢の変化を踏まえた経済対策**（令和８年度６月補正予算）、**令和８年台風第６号による被害箇所の復旧**（令和８年度９月補正予算）など、幅広い分野で必要な予算について決定しました。



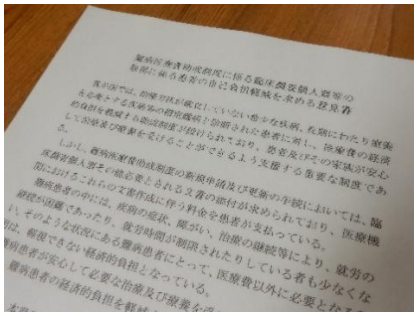
補正予算

物価高騰等に対する
支援のための補正予算

１月～ 10 月	⑧ 三重県議会の意見を国へ発信 《１９件の意見書を可決して国へ提出》 （注）２０２６年１月～１０月末に提出した件数です

県議会は、県政の課題で、国の法律や政策によって解決されるものについて、国会や内閣総理大臣、関係大臣に意見書を提出しています。

今年は、売春防止法の規制強化等、子どもの就学・修学支援、学校の防災対策の充実、難病患者の自己負担軽減などを求める１９の意見書を、本会議で可決し、国に提出しました。



難病医療費助成制度に係る
臨床調査個人票等の取得に係る
患者の自己負担軽減を求める意見書

５月～	⑨ 三重県議会のこれまでの改革の歩みを紹介 《三重県議会基本条例制定２０周年を機に広報用コンテンツを作成》

三重県議会は、平成１８年に都道府県議会で初めて「三重県議会基本条例」を制定しました。制定から２０年を迎えるにあたり、**これまで三重県議会が取り組んできた議会改革の活動を振り返り、県民の皆さんに議会活動への関心を深めていただけるよう、図表などを活用した簡潔で分かりやすい広報用コンテンツを制作しました。**

このコンテンツを活用し、令和８年１１月末発行の「みえ県議会新聞」で、三重県議会が取り組んできた改革の歩みや主な取組内容について紹介します。



広報用コンテンツ
（一部）

６月	⑩ 北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための広報啓発を推進する決議 《三重県議会の意思を決議》

北朝鮮による日本人拉致問題が長期化する中で、その解決のためには、一層の世論喚起が不可欠です。特にこれまで拉致問題に触れる機会の少なかった若い世代に、理解促進を図ることが重要であることから、６月定例月会議において、**「北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための広報啓発を推進する決議案」を可決しました。**

この決議案では、三重県議会は、北朝鮮による日本人拉致問題に対する理解を深めるための広報啓発の取り組みの充実が図られるよう推進するとしています。



子ども向けパンフレット
「たいせつな人をとり戻すために」

８月	⑪ 県民生活の向上等に向け、今後の県政運営に関する意見を知事に申し入れ 《令和７年度の政策を評価し、議会の意見を表明》

予算決算常任委員会および各行政部門別常任委員会では、関係部局が令和７年度に取り組んだ成果や課題、今後の取組方向をとりまとめた「令和８年版県政レポート（案）」について詳細に調査・議論しました。

これらを踏まえ、８月７日、予算決算常任委員長をはじめ各委員長が、知事に対し、**重要課題である人口減少への対応**や、**積極的な予算編成を含む持続可能な財政運営の確保**を求めるとともに、各施策に対する意見を述べ、令和９年度の行政展開方針や当初予算編成に反映させるよう申し入れました。

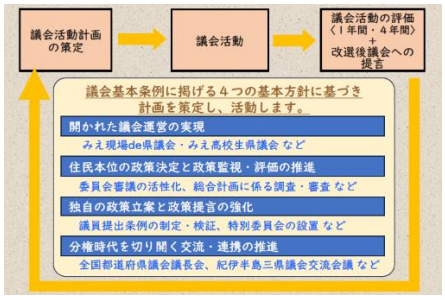


知事への申し入れ

９月～	⑫ 議員が４年間で行った議会活動について評価を実施 《改選後の次期議会へ向け提言作成を開始》

三重県議会では、今の議員の任期である４年間で特に注力して実施すべき取り組みをまとめた「三重県議会 議会活動計画」を議員任期の最初の年である令和５年５月に策定し、以降、**毎年度、取り組みの評価を行いながら、改善へとつなげています。**

令和８年度は、この計画の最終年度であることから、４年間の議会活動を評価するための取り組みを、９月から本格的に開始しています。有識者からの評価に加え、県民の皆さんへのアンケートなども行い、**改選後の議会活動に生かせるようしっかり振り返りを進めていきます。**



議会活動計画のサイクル

10 月	⑬ 県の次期総合計画に議会の意見を反映へ 《次期総合計画案について調査》

全員協議会および各行政部門別常任委員会では、次期総合計画の構成案や、みえ元気プランの検証と２０３１年の目標について、**詳細に調査・議論しました。**

これらを踏まえ、今後、正副議長と各委員長が、出された意見を次期総合計画案に反映するよう、知事に対して申し入れを行う予定です。



次期総合計画案の調査

～独自の政策提言と政策立案の強化～

3 月～	⑭ 伊勢茶の普及や振興に向けて 《議員提出条例の「伊勢茶に親しむ暮らし推進条例」が成立》

伊勢茶の振興に関する条例策定調査特別委員会で約２年間検討されてきた**「伊勢茶に親しむ暮らし推進条例案」**が上程され、３月２３日、**全会一致で可決・成立しました。**

この条例は、即日公布され、４月１日から施行されています。

条例の主な内容としては、伊勢茶に親しむ暮らしの推進を図り、伊勢茶の振興に寄与するため、**伊勢茶の普及の促進と伊勢茶に親しむ機会の確保**に関する基本理念や県の責務、茶業者の役割、計画の策定等を定めています。



伊勢茶の普及を促進

３月	⑮ 豊かで美しい三重の海づくりの推進について特別委員会で調査 《意見をまとめて知事に提言・国へ意見書提出》

三重県にとっての「海」は水産業や県民の暮らしにとって非常に重要なものですが、海を取り巻く環境は年々厳しさを増しています。全国豊かな海づくり大会の開催も契機として取り組みを推進するため、令和７年５月に新たに特別委員会を設置しました。

令和８年３月、豊かで美しく親しみのある海づくりの好循環の創出のためには、**海の保全、人材の確保、人と自然の共生等の取り組みが必要**であると取りまとめ、**国に対して意見書を提出するとともに、知事に提言を行いました。**



農林水産省へ意見書を提出



知事への提言

３月 10 月	⑯ 議員の資質向上と共通認識の醸成を目指して 《議員勉強会を２回開催》

県政の諸課題に対応するため、議員の資質向上と共通認識の醸成を目指して外部有識者を招いた勉強会を開催しました。

３月２３日には、「元気に暮らし続けられる交通まちづくり」をテーマに、地域公共交通の現状や移動手段の確保など、**持続可能な地域公共交通の実現へ向けた取り組み**について理解を深めました。

また、１０月１日には、「食料安全保障と食料自給率」をテーマに、安全・安心な農産物の安定供給に向けた農業・農村の役割を確認し、**県民の暮らしを支える食料安全保障の在り方**について理解を深めました。



１０月１日
議員勉強会の様子

～分権時代を切り開く交流・連携の推進～

7月	⑰ 全国の都道府県議会と共に国への要請を行いました 《全国都道府県議会議長会　地方自治委員会　要請活動》

三重県議会は、他の都道府県議会と共に地方自治の発展を図るため、全国都道府県議会議長会に参加して活動しています。

令和８年７月には、全国都道府県議会議長会内の地方自治委員会として、委員長の福島県、副委員長の三重県・新潟県・広島県の議長が揃って、政府・与党への要請活動を行いました。

当日は、**地方創生の推進や地方税財源の充実等**、令和９年度政府予算編成及び施策に関する、**全国都道府県議会議長会からの提言と決議について、実現に向けて要請**しました。



要請活動の様子
右端：藤田議長
〈内閣府〉

8月	⑱ 紀伊半島地域の重要課題の解決に向けて三県で連携 《紀伊半島三県議会交流会議の開催》

８月４日、紀伊半島三県議会交流会議を和歌山県で開催し、**三重県、奈良県、和歌山県の議員で紀伊半島アンカールートの早期整備とクマ被害対策について意見交換しました。**紀伊半島アンカールートは、半島防災に不可欠であり、地域にとって「命の道」であることや、クマの被害の拡大の懸念が高まっていることを認識し、三県議会で連携して対応を国へ要望していくことで合意しました。



会議の様子

～その他～

5月	⑲ 三重県議会議長がパラオ共和国を訪問 《友好提携３０周年記念》

三重県とパラオ共和国との友好提携３０周年を記念し、**三重県議会議長として提携後初めてパラオ共和国を訪問**しました。

県行政団と共に**パラオ共和国の大統領と面談**し、今後の交流について意見交換を行う他、確認書締結式や３０周年を記念した三重県ＰＲ・交流イベントや記念レセプション等にも出席し、**三重県議会を代表して、国際交流議連・パラオ部会のメンバーと共に、パラオ政府や関係機関等との連携・交流を促進**しました。



大統領との面談

下段左端：服部前議長

5月	⑳　県議会新体制の発足 《４年目の議会活動をスタート》

５月に正副議長選挙を行い、第１１６代議長に藤田宜三議員（鈴鹿市選出、新政みえ）、第１２０代副議長に津田健児議員（四日市市選出、自民党県議団）を選出しました。また、７つの常任委員会および議会運営委員会の委員長・副委員長や委員などの選出も行い、県議会の新体制が発足しました。**議員任期最終年となる４年目の議会活動をスタートしました。**



議長就任のあいさつ

9 月～ 10 月	㉑ 議会活動のさらなる充実へ　大学院生が議会に提案 《インターンシップ実習生２名を受入れ》

９月～１０月、北海道大学公共政策大学院および東北大学公共政策大学院の学生２名をインターンシップ実習生として受け入れ、本県議会のさまざまな取り組みを体験する実習を行いました。

また、実習生の大学院における今後の研究にも生かしてもらえるよう、実習期間中には**全会派の議員へのインタビューの機会を設けました。**

１０月に実施した報告会では、実習生から、「県民から聴いた声をその後どう扱ったか記録し、県民にフィードバックする仕組みを広めていくべき」、「災害等の非常時に即座に議会として対応できるよう、平常時から災害訓練の実施や連絡経路を確立しておくべき」などの提案がなされました。



議員を前に実習成果を報告